

今後の活動に向けて

QPITS

2012年 8月

今後の活動に向けて

1. 目標

スマートフォンサービスと地域密着情報を連携させる「**共通なプラットフォーム**」を整備することにより

- ① 地域生活者及び来訪者が安心して情報「スマホ」の利活用がシームレスにできることを目標とする。
- ② 新たな産業創出の仕組みを構築することを目標とする。
- ③ 多様膨大な移動情報を活用して地域・都市設計に活用できることを目標とする。
- ④ スマートサービスを実現した地域をQPITSモデルとしてエリア単位にグローバル展開することを目標とする。

2. 背景

分野・業種の枠を超えて多種多様な情報(ビッグデータ)を最大限有効に活用するには、安価かつ容易に情報を取得・活用できる環境の整備が求められ、それがひいては「**IT融合新産業の創出**」に繋がると考えられる。

【現状の課題】

- 誰が作ったのか不安
- 安全なのか心配
- 安全かつ保障された情報をユーザに提供
- スマートフォン「アプリ」の流通促進



課題→ブランド化

3. 手段(必要性)

多種多様な移動情報を収集する手段として「**スマホ＝(位置測位)**」情報を活用する。

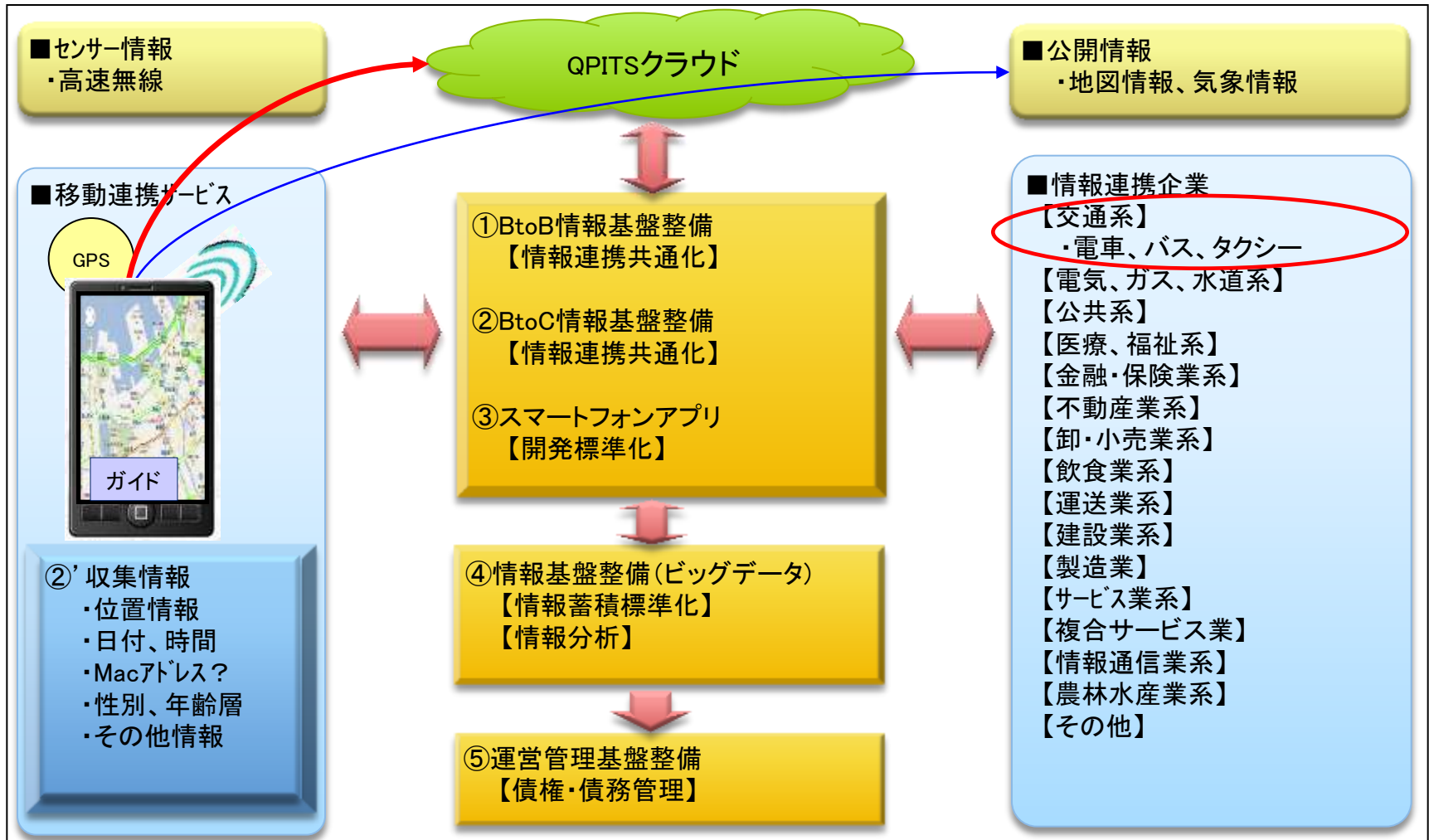
- ① スマートフォン「アプリ」を常に利活用して頂くために地域に密着した情報をシームレスまたはリアルタイムに提供する。

4. 研究開発の具体的内容(平成24年度実証実験イメージモデル)

移動手段として最も利用する**交通情報**「ダイヤ情報、バス接近情報、地図ロケ情報」をスマートフォン「アプリ」で提供する。

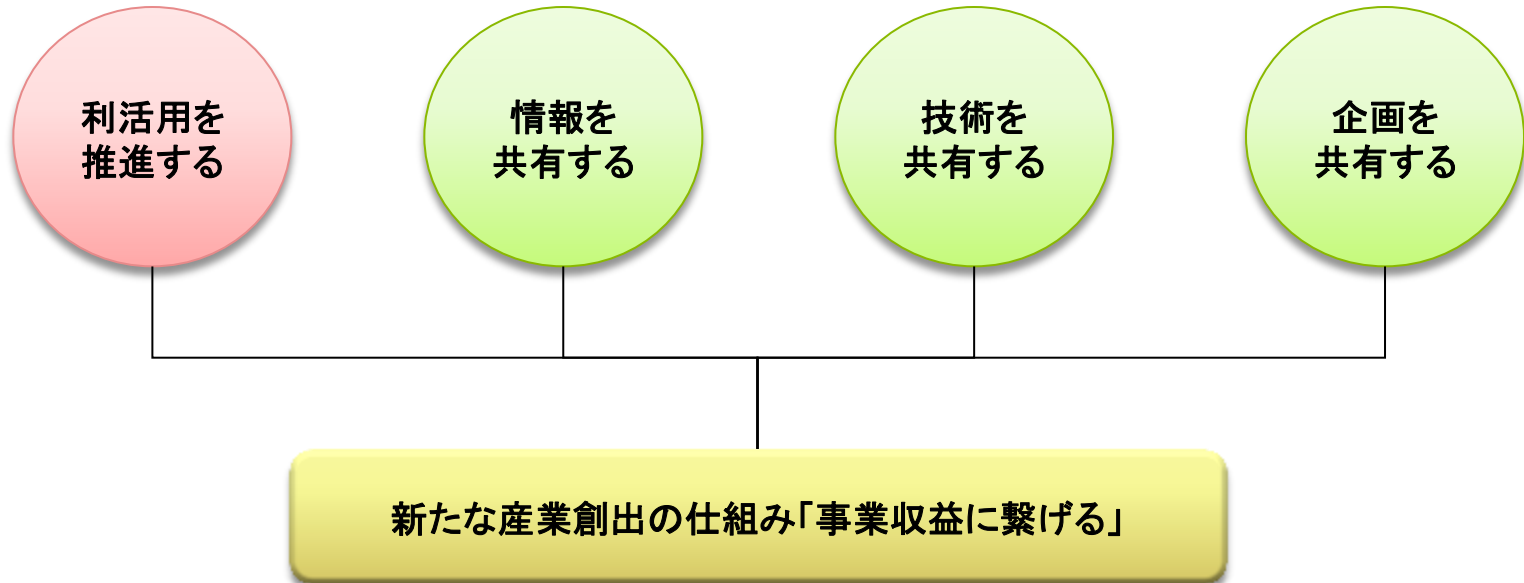
【交通分野】

- ① 都市交通インフラの状態をリアルタイムに把握できる仕組みをシステム化に利用しやすいインターフェイス(API)で提供するシステムの開発(最適移動サービスをユーザに提供する。)



5. 基本的な考え方

■IT融合新産業の創出



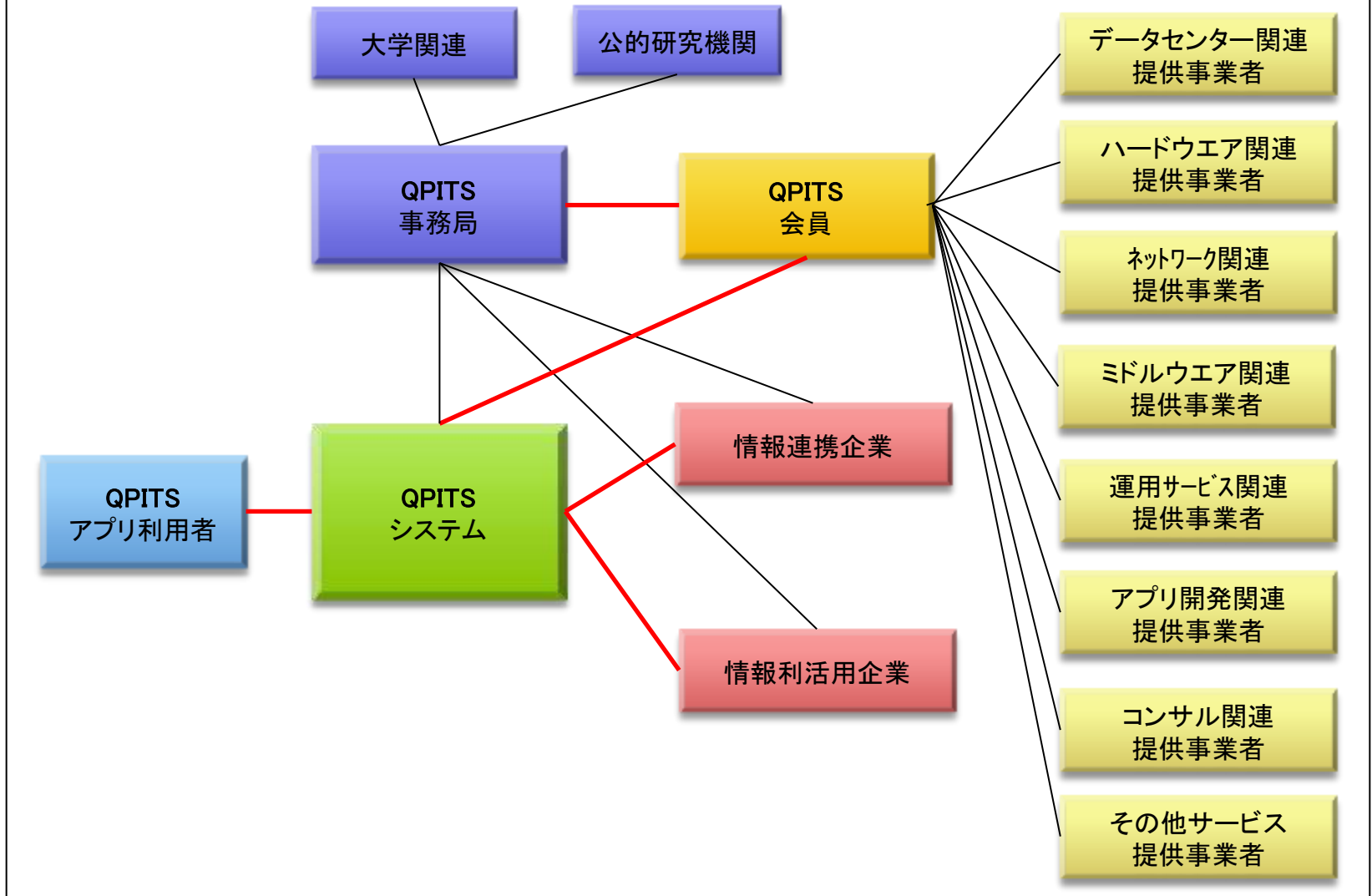
オープンソースソフトウェアの基盤整備

- 標準データフォーマットの整備(公開)
- 開発標準仕様の整備(公開)
- 開発標準の説明会(セミナー)

共有化→効率化

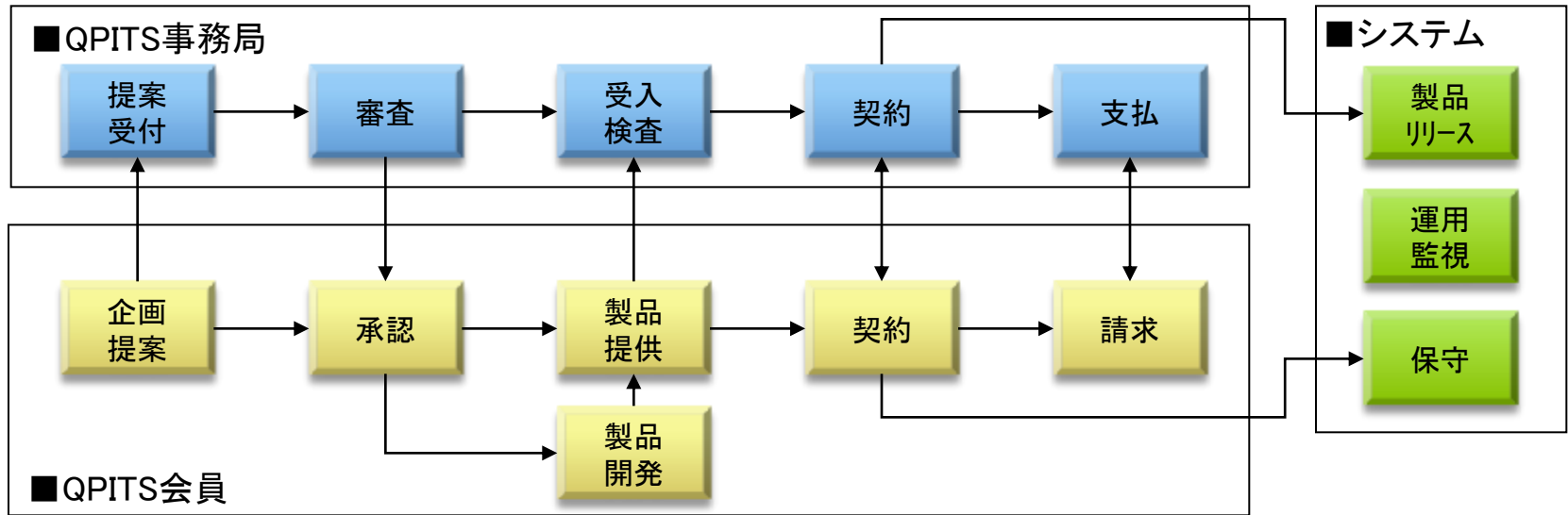
6. 事務局とITベンダーの連携について

■連携概略図

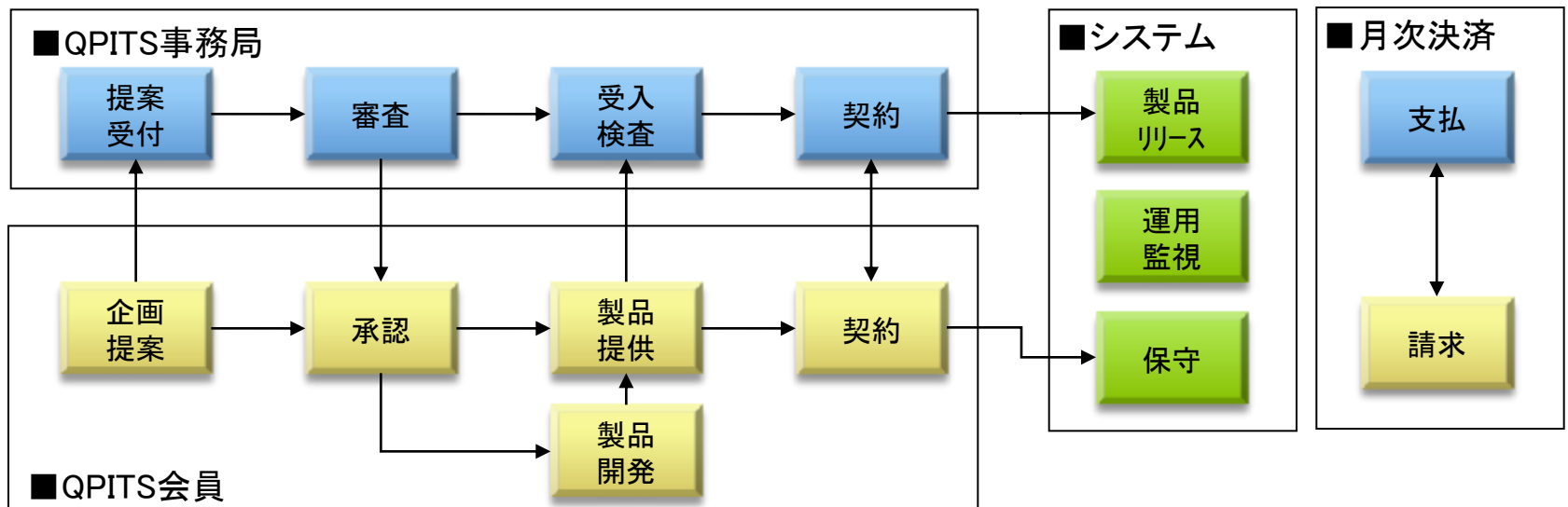


7. 製品リリースまでの流れ

参考パターンⅠ



参考パターンⅡ



8. 実現に向けて「QPITSブランド構想」

【ビジネスモデル検討「キーワード」】

■ 移動情報を「**集める**」には何を実現すれば集まるか。

魅力ある「**情報**」で

■ 移動情報が「**集まる**」と何が実現できるか。

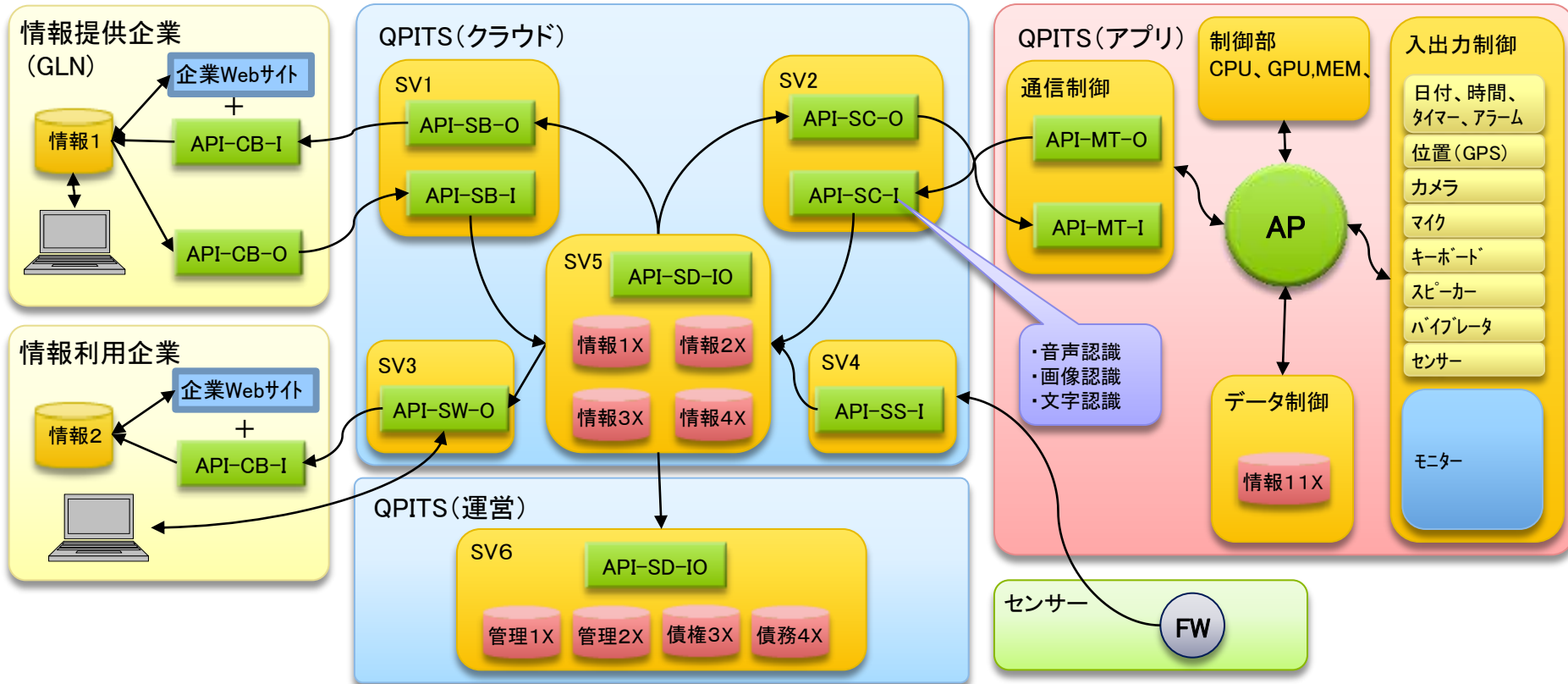
「**人**」を動かす
ことができる

「**人**」を集める
ことができる

■ 地域の経済活性化に繋がる。

- 地方公共団体はじめ幅広い分野へのクラウドサービスの導入推進などスマホ利活用促進
- まちづくりなどと一体となった国民が安心して利用できるスマホ利活用促進
- 物販業、飲食業など民間企業との連携促進（広告、クーポン、抽選券、ポイントなど「集客」）
- 物流業と生活者との連携促進（買い物代行、集荷、配達情報など）
- 施設と生活者との連携促進（災害時の誘導、防犯、緊急、イベント情報など）
- 次世代配信（エリア）サービス
- その他

9. 情報基盤整備について



※情報基盤の概要及び検討内容(項目を洗い出すことから…)

1. 必要となる機能について(通信機能、送受信管理、送受信制御機能、マッピング機能)
2. ネットワーク環境について(セキュリティ、FW)
3. 処理モデル(S-S型「Push型通信」、C-S型「Pull型通信」)
4. 大量データへの対応(圧縮ルール)
5. メッセージの基本的構造(SBDH)
6. メッセージ別の階層構造概要
7. データベース
8. データ構成

1. 地域密着型モデル

ダイヤ情報、交通機関情報、運賃情報、交通情報、駐車場情報、観光情報、自治体情報、グルメ情報、ショップ情報、不動産情報、他

- 位置情報から最寄の場所、目的地に対するナビなどのモデル整備
- 画像情報から正確な位置を把握し駅構内に対するナビなどのモデル整備
- 音声情報から目的に対する検索などのモデル整備
- センサー情報から目的に対する案内検索などのモデル整備

※誰もが何時も身近に利活用するスマートアプリの提供

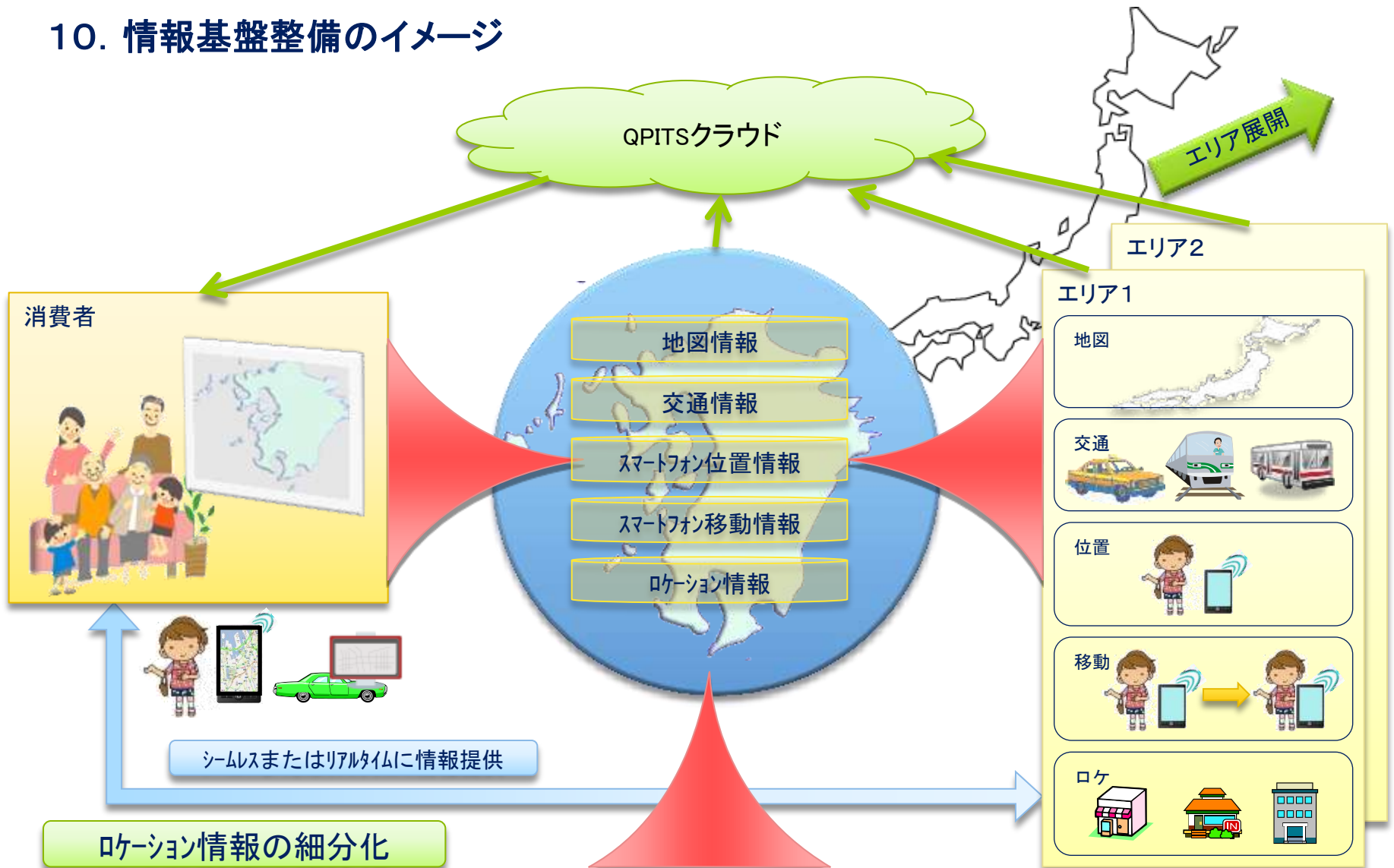
2. 広域型(観光向け)モデル

ダイヤ情報、交通機関情報、運賃情報、交通情報、駐車場情報、観光情報、自治体情報、グルメ情報、ショップ情報、不動産情報、他

※観光に来る人が利活用しやすいバリアフリー型の情報提供

※観光に行く人が利活用しやすい案内型の情報提供

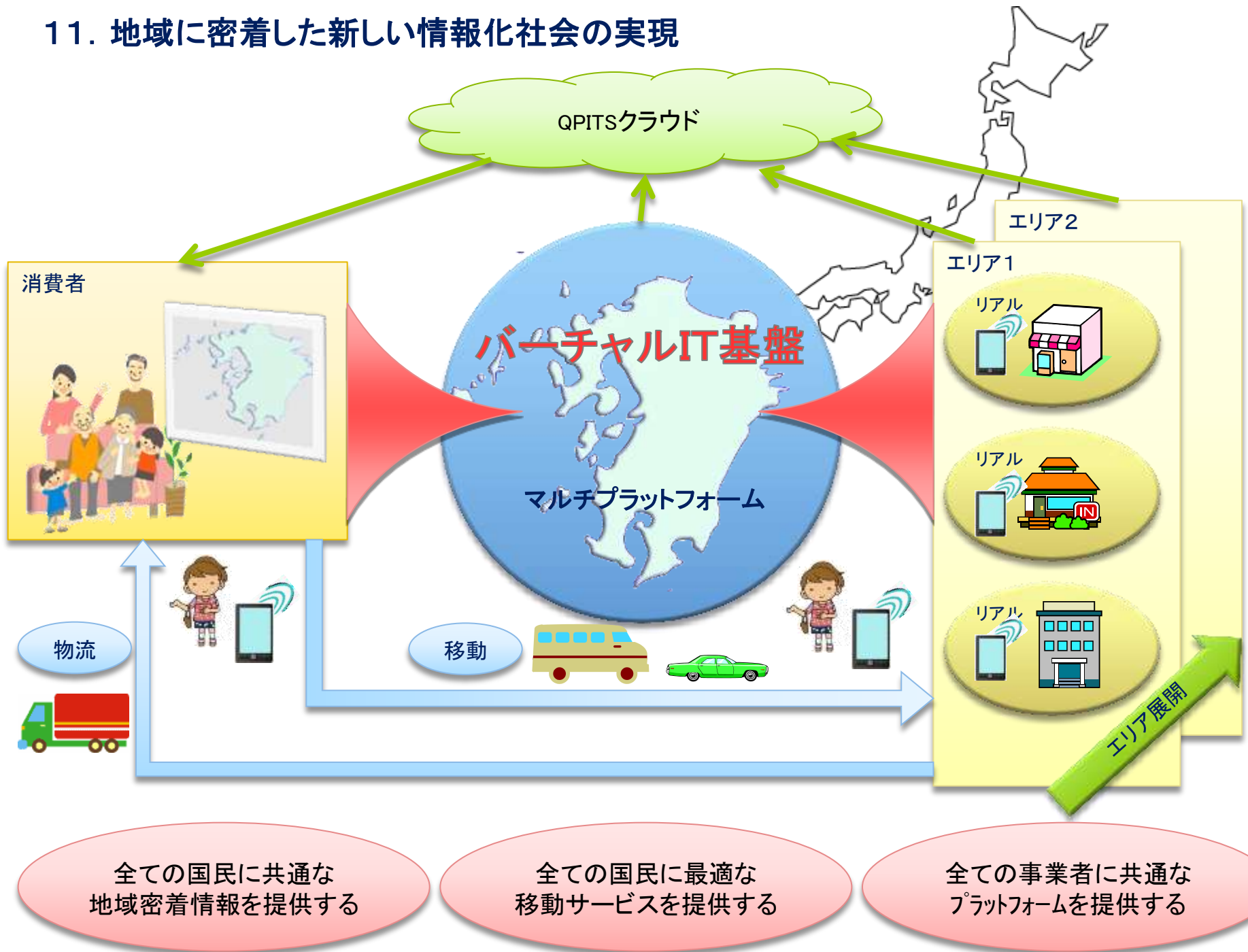
10. 情報基盤整備のイメージ



ロケーション情報の細分化

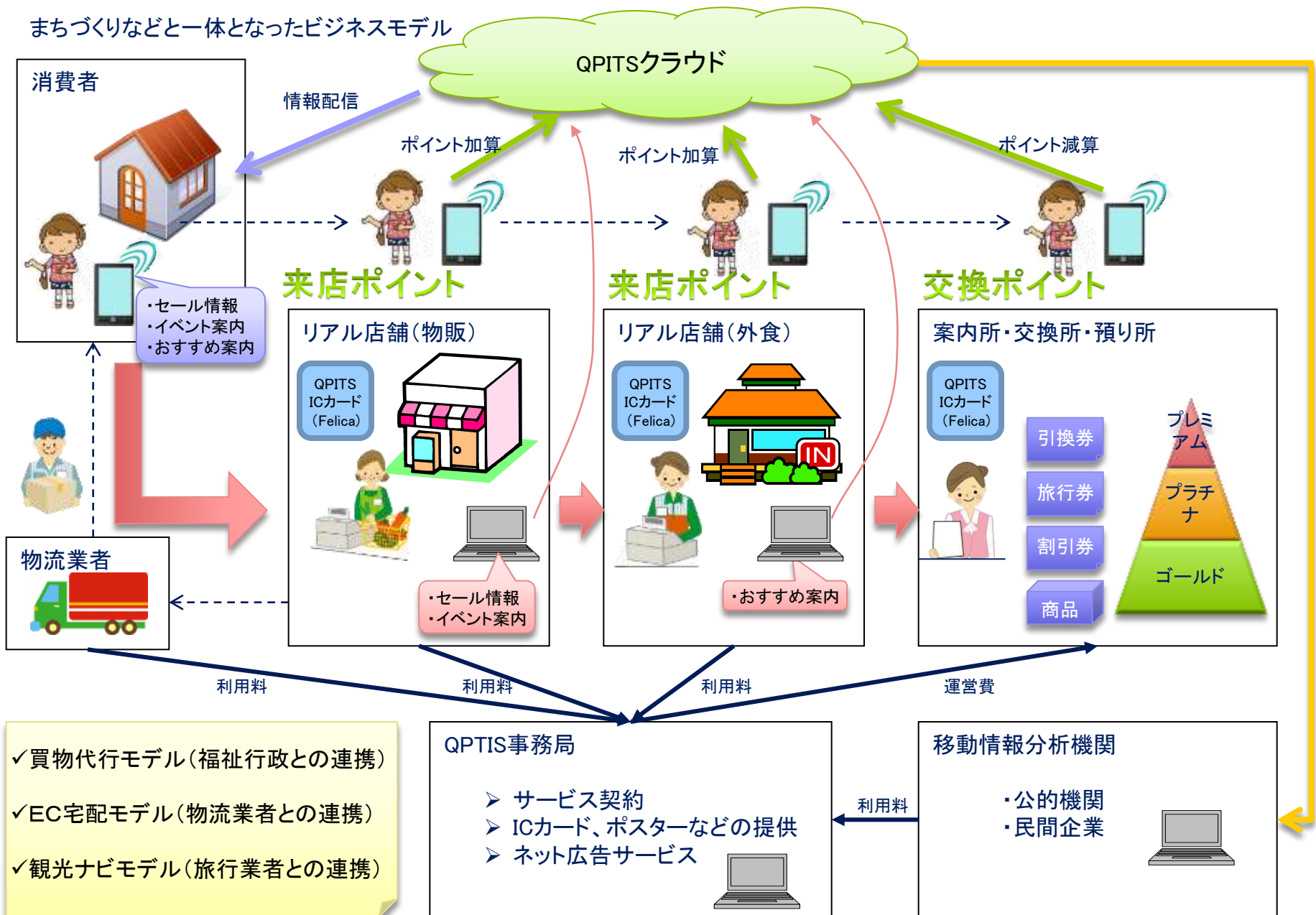
ロケーション								交通系								商業系								外食系					観光系				行政															
国	都道府県	住所CD	住所	施設名称	エリア	GLN	位置	その他	バスターミナル	バス停	駅	タクシー乗場	駐車場	駐輪所	空港	港	IC	SA	PA	物販（婦人服）	物販（紳士服）	物販（子供服）	物販（貴金属）	物販（玩具）	物販（化粧品）	物販（書籍）	美容・理容	クリーニング	生花・園芸	その他	ファミレス	洋食	和食	カレー	ラーメン	うどん	そば	居酒屋	リゾート地	温泉地	海水浴場	遊園地	名所・旧跡	役所	公民館	避難所	交番	公園

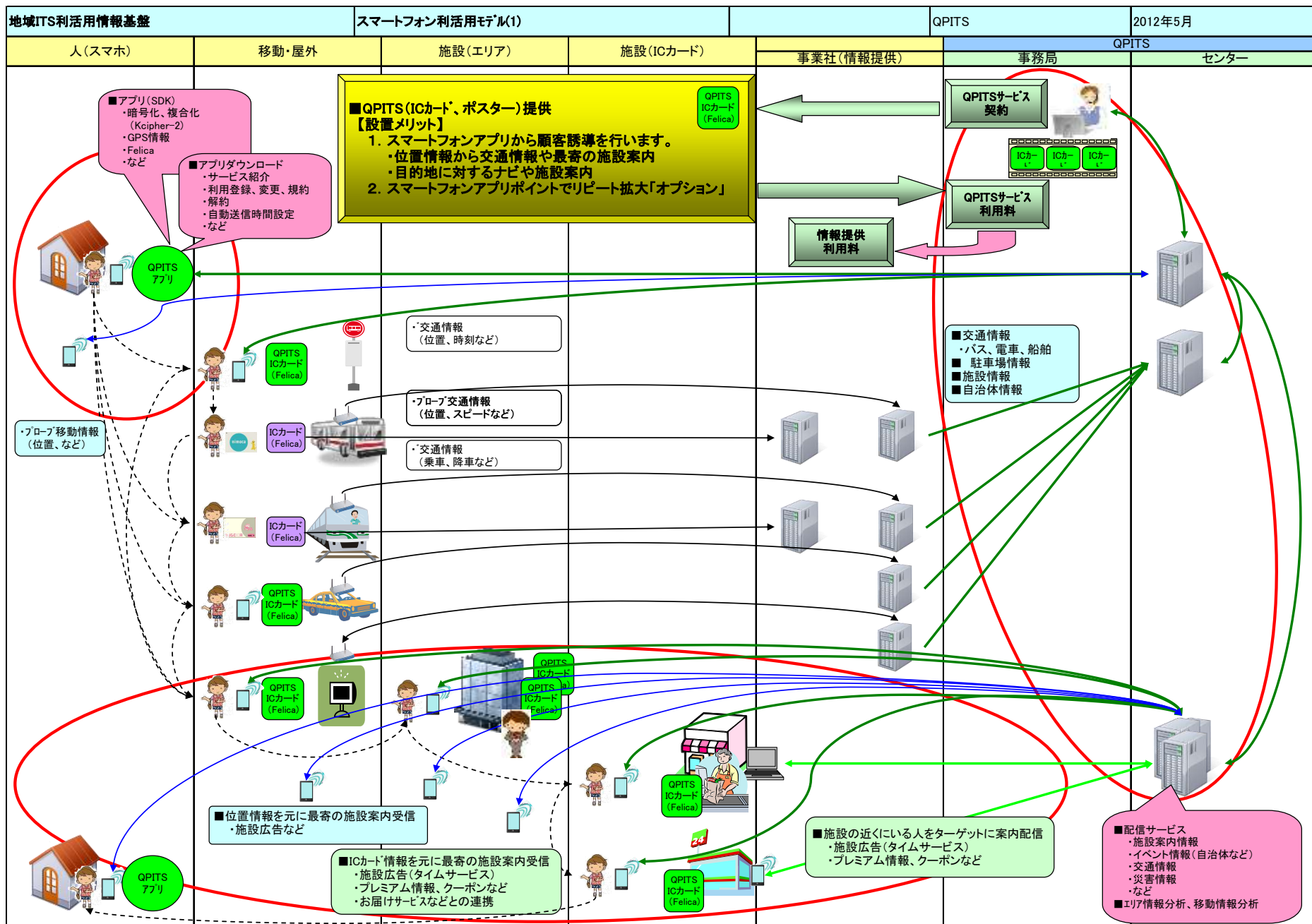
11. 地域に密着した新しい情報化社会の実現

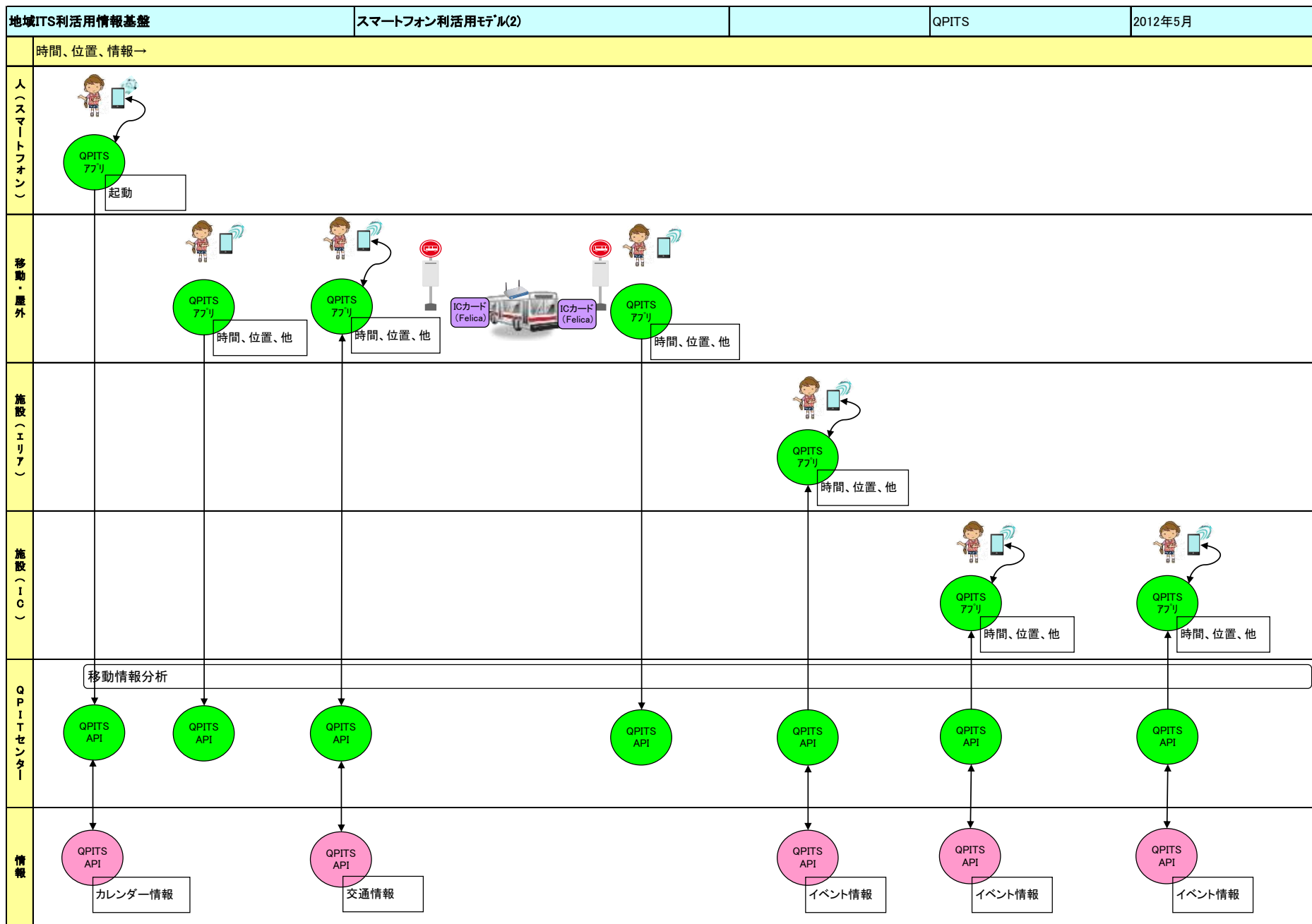


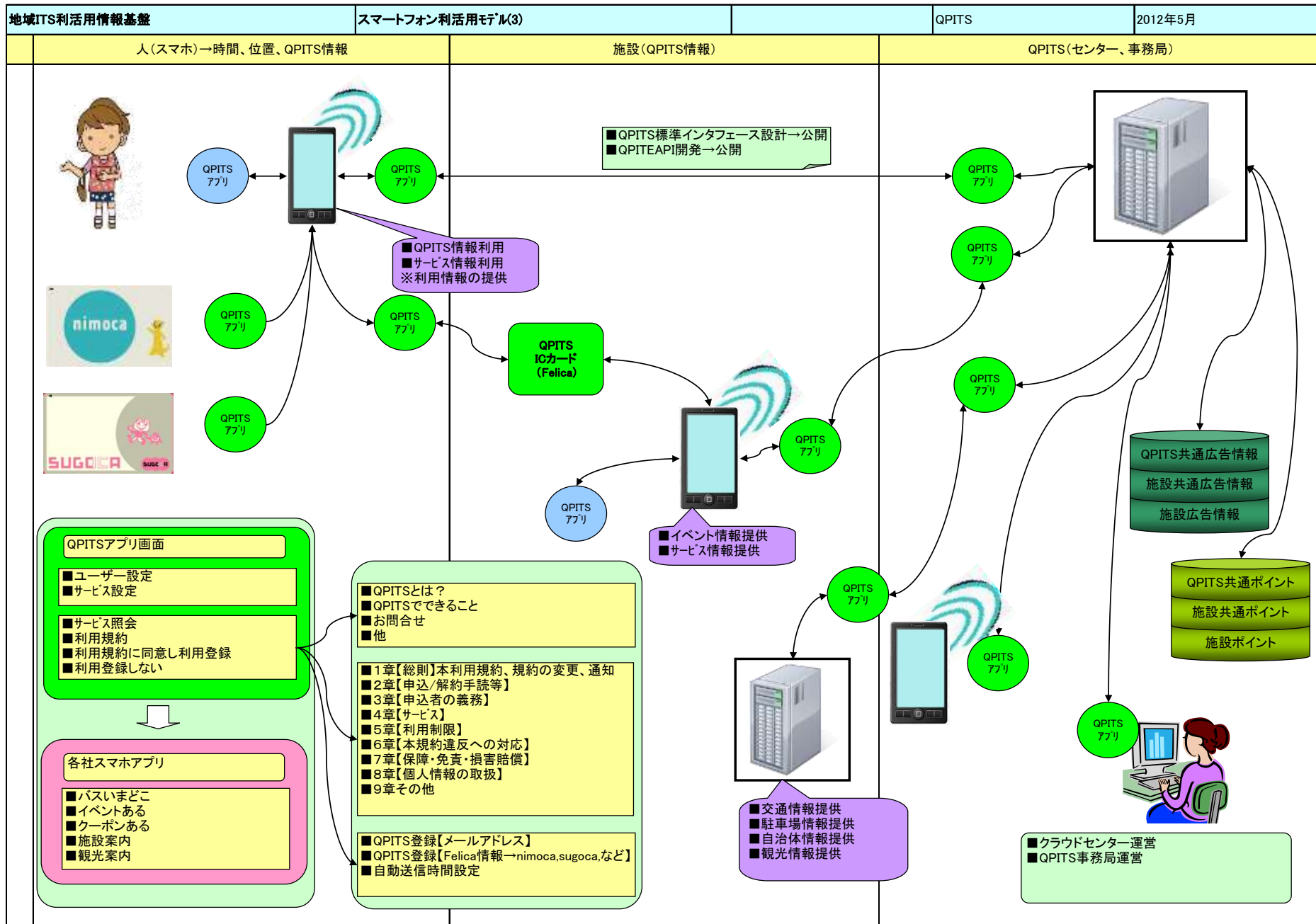
12. ビジネスモデルについて

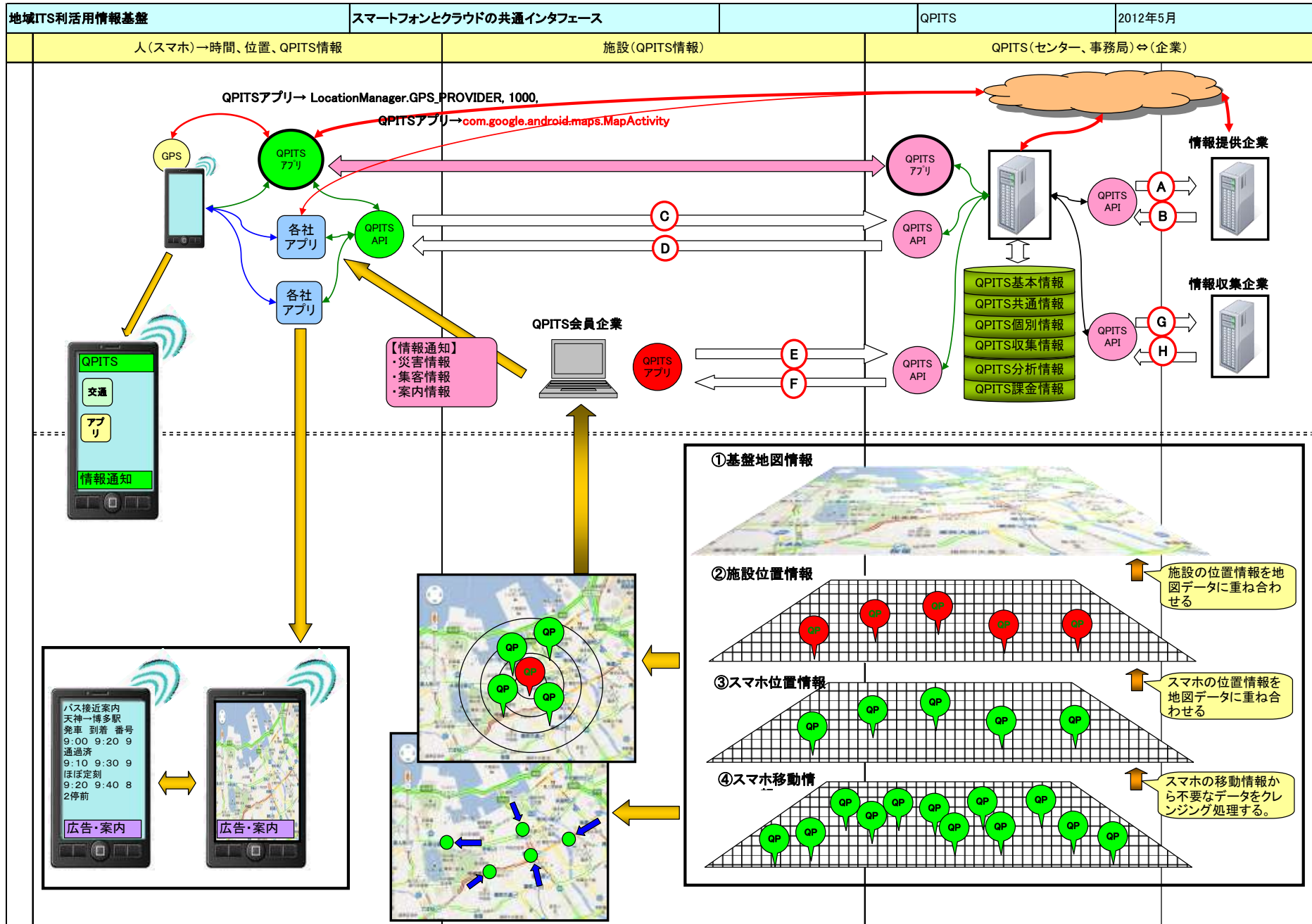
まちづくりなど一体となったビジネスモデル











[illegible]

・ 今後のテーマについて

- ✓ ビジネスモデルの収集と整備
- ✓ サービスモデルの収集と整備
- ✓ 交通系実証実験モデルの整備
 - ✓ B to B 情報基盤(公開)
 - ✓ B to C 情報基盤(公開)
 - ✓ スマートフォンアプリ(公開)



- ✓ 標準データフォーマットの整備
- ✓ 開発標準仕様の整備

- ✓ 2013年度 ITS国際会議に向けた基本方針決定
- ✓ IT融合による新社会システムの調査・研究
- ✓ QPITS 標準化に基づく設計・開発・実験・評価